

地域情報化アドバイザー制度活用報告書（4日目）

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	流山市	代表者名	流山市長 井崎 義治
担当者部署	情報政策・改革改善課	連絡先電話番号	04-7150-6078
担当者役職	主査	担当者氏名	堤 祐樹
		連絡先E-mail	keieikaikaku@city.nagareyama.lg.jp
住所	270-0192 千葉県流山市平和台1丁目1番地の1		

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	高村 弘史
評価	大変よい
上記評価の理由（どのよう なところがよ かったか等詳 細に）	自治体情報システム標準化について、各課で行うべき作業を記載した「令和3年度の目標（ゴール）」を御確認いただき、具体的な助言を頂けたため。
アドバイザーへの要望事項	今後も継続した支援をお願いしたい。

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）	活動時間（分）
3-1. 活動	2022年1月14日	10時00分	11時00分		60
	派遣形態	支援・助言（オンライン）			

4. 報告書に関してのAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可
------	--------------------------------------

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】 職員	人数 2人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点 （具体的にご記入下さい）	前回の御講演で、基幹系システムを使用している各課の係長を主な対象とし、危機感を持って自治体情報システム標準化に向けて動いていかなければならないという意識を醸成できた。しかし、具体的な作業に着手するにあたり、当市で作成した「令和3年度の目標（ゴール）」に課題や問題点がないか不安があったこと。	
支援により目指す成果 （具体的にご記入下さい）	標準準拠システムに対応し、令和7年度までにガバメントクラウドへ移行すること。各情報システムにおける業務の概要を整理し、標準準拠システムに対応していく作業を各担当部署自ら主体的に行い、BPRを通して業務改善を実現すること。システムを使用した業務について、ベンダーが開発したシステムありきで業務を遂行していくのではなく、システムで何をやりたいのか職員自ら主体的な判断ができるようになること。	
アドバイザーに支援を受けた内容 （具体的にご記入下さい）	内容は概ね問題ないと評価を頂いた一方、現時点のベンダーの進捗状況では年度をまたいだ作業となるため、時期を「令和4年6月まで」と余裕を持たせる必要があるとお話いただいた。また、併せてPIA（特定個人情報保護評価）をはじめとしたリスク評価を行っていくべきとの御指摘も頂けた。さらに、BPRの責任が各課にあるべきとの理由から、現行の推進体制について見直すべきとの御助言があった。	
支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）	御指摘いただいた内容を反映した上で、進捗確認を含めて「令和3年度の目標（ゴール）」の再通知を行うなど対応を検討し、速やかに進めていきたい。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 （具体的にご記入ください）	リスク評価を標準仕様書の確認及び業務フローの整理と併せて行っていくことについて、具体的なイメージを御説明いただいたので、イメージはできたもののその作業が膨大となるため、情報政策課としてどのように各課へアプローチしていくか、という点。	

アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
5-3. 今後の計画 事業の最終的な目指す姿	最も当てはまるものリストより選択下さい	①予算は確保済みであり、年度内に推進する

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

